

自然環境調査結果の概要について

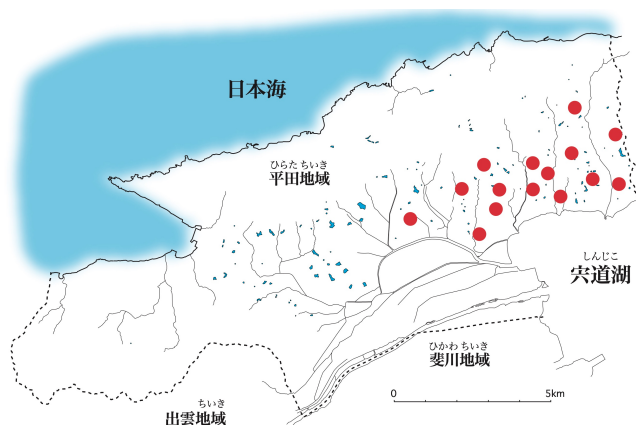
出雲市では、市内の自然環境の状況を把握し、各種の施策に活用するため、野生生物を対象とした調査を継続的に実施しています。

令和 5 年度は、出雲市の北東部に位置する平田地域のため池について、生息する水生動物と水生植物の調査を行いましたので、その概要を報告します。

○調査の対象

この調査では、市内の生物多様性を知るため、確認された生物をできるだけ記録するようにしています。

この中には、レッドデータブックやレッドリスト（注 1）の掲載種のほか、環境省の生態系被害防止外来種リストに掲載されている外来生物（注 2）が含まれています。



令和5年度に調査したため池

○調査地域と方法

平田地域のため池から 15 地点を選び、採集や目視による調査を行いました。

15 地点のうち 5 地点については、水中を漂う生物由来の DNA から種を推定する、「環境 DNA」の分析方法を用いて魚類と貝類の調査を行いました。調査ではため池の水を 1 リットル採取し、これを専門の分析機関に委託し、採取された水に含まれている DNA を調べました。

○確認された生物

令和 5 年度の通常の採集および目視調査で記録された生物（水生動物・水生植物）は、全 66 種です。その内訳は、哺乳類 1 種、両生類 4 種、魚類 7 種、巻貝 3 種、ヒル類 1 種、甲殻類 3 種、昆虫類 39 種、水草 8 種です。

環境 DNA 分析で確認された魚類は少なくとも 8 種、貝類は少なくとも 7 種でした。

○水生動物

ため池で見られた希少種は、島根県版レッドデータブックや環境省のレッドリストに掲載されている貝類 2 種、昆虫類 4 種、魚類 2 種、両生類 1 種が確認されています。(別表 1 参照)

外来生物は、4 種確認されています。このうちウシガエルとヌートリアは特定外来生物に指定されます。

○水生植物

島根県版レッドデータブックや環境省のレッドリストに掲載されているイヌタヌキモとオオトリゲモを確認しました。また外来種として確認したハゴロモは、環境省の総合対策外来種・重点対策外来種に指定され、特に生態系に悪い影響を与えることが心配されている種です。

○環境 DNA 調査

ため池の環境 DNA は、池と周辺の集水域の生物を反映しています。少なくとも 8 種の魚類の生息が確認され、2 種の希少種と 1 種の外来種が含まれていました。貝類では外来種が 3 種含まれていました。DNA では見分けられない種もありますが、ため池の生物多様性をモニタリングする上で、非常に有効な方法です。

○平田地域の水生生物とその特徴

調査を行った平田地域では、ため池の生物の変化が見られました。平成 27 年から 28 年の同じ地点での調査結果と比較すると、確認された水生動物の種数が増加した池は 4 地点、同じだった池が 1 地点、減少した池が 10 地点でした。種数が減った池では、水草の減少などが見られました。

(注 1) レッドデータブックやレッドリストは、絶滅のおそれのある野生動植物をまとめた資料で、環境省や都道府県などが発行したものがああります。島根県では、平成 25 年と 26 年に改訂版のレッドデータブックが発行されています。環境省はレッドリストとして、定期的に絶滅のおそれのある野生動植物のリストを見直しています。

(注 2) 正式名称は、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」。侵略性が高く、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがあるものから選定した外来種のリストです。

(別表 1)

水生動物の希少種

貝類 (2 種)	オオタニシ	モノアラガイ
昆虫類 (4 種)	ミヤケミズムシ	キイロコガシラミズムシ
	クロホシコガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ
魚類 (2 種)	ドジョウ	ミナミメダカ
両生類 (1 種)	トノサマガエル	